

平成14年1月7日

ヘリコバクターピロリ

ヘリコバクターピロリ（ピロリ菌）を皆さんご存じですか？これは胃の粘膜に生息する細菌で、胃炎や消化性潰瘍、また胃癌とも関係があるのではと騒がれている菌です。胃は強い酸（胃酸）があるため、通常の菌は生息できません。しかしピロリ菌はウレアーゼという酵素を持っており、これが胃内でアンモニアを産生することで胃酸を中和し、自分が生息できる条件に保つことで強酸性条件下の胃内でも生息できるのです。

どんなときに感染するの？

はっきりした感染経路は未だ分かっていませんが、口を介した感染が大部分であるだろうと考えられています。また、ピロリ菌の感染率は衛生環境と関係していると考えられており、上下水道が十分普及していなかった世代の人で高い感染率となっています。

若い人の感染は比較的少ないのですが、40歳以上の人では約80%の人がピロリ菌に感染しています。衛生環境が整った現代では、ピロリ菌の感染率は著しく低下しており、あまり神経質になる必要はないでしょう。

ピロリ菌に感染している人はみんな除菌した方が良いのですか？

ピロリ菌に感染している全ての人が除菌療法を受けなければならないわけではありません。ほとんどのピロリ菌感染者は、症状もなく健康に暮らしています。

除菌療法の対象となる人は胃潰瘍または十二指腸潰瘍の患者さまでピロリ菌に感染している人です。もしも、あなたが胃潰瘍や十二指腸潰瘍であっても、除菌療法が必要かどうかは主治医とよく相談して下さい。

除菌法について

除菌療法は「胃酸の分泌を抑える薬」と二種類の「抗生物質」の合計3剤を同時に1日2回、7日間服用することになります。除菌には抗生物質を用いますので今までアレルギーなどの既往歴がある方は医師に申し出て下さい。また、自分の判断で服薬を中止すると、除菌に失敗して、治療薬に耐性を持ったピロリ菌があらわれることがあります。

全ての治療法が終了した後、4週間以上経過してからピロリ菌の検査（除菌できたかどうかの検査）は必ず受けるようにして下さい。

除菌療法の副作用にはどんなものがあるのですか？

これまでの除菌療法の主な副作用として以下の事柄が報告されています。
軟便、下痢：便がゆるくなったり、下痢を起こしたりすることがあります。
味覚異常：食べ物の味をおかしいと感じたり、にがみや金属のような味を感じたりすることがあります。

A S T（G O T）やA L T（G P T）の変動：肝臓の機能を表す検査値が変動することがあります。

副作用があらわれたらどうすればいいのですか？

軟便や、下痢あるいは味覚異常が起こった場合には、症状に応じて次のように対処して下さい。

軟便、軽い下痢または味覚異常の場合

自分の判断で服用する量や回数を減らしたりせずに、残りの薬を最後まで（7日間）服薬を続けて下さい。但し、服薬を続けているうちに下痢や味覚異常がひどくなった場合には我慢せず、主治医または薬剤師に相談して下さい。

発熱、腹痛をとまなう下痢、あるいは便に血が混ざっている場合

このような場合には直ちに薬の服用を中止して、主治医又は薬剤師に連絡して下さい。

その他、気になる症状を感じた場合には自分の判断で勝手に服薬を中止するのではなく、主治医または薬剤師に相談して下さい。

除菌療法が終了した後に生じる問題点が何かありますか？

ピロリ菌の除菌が成功した患者さんの約5～10%に、胃や十二指腸のびらん、逆流性食道炎が報告されています。いずれも症状は軽微あるいは無症状の場合が多く、治療が必要となるケースはまれです。